

A 57 食生活と人格形成に関する研究Ⅰ—女子学生の嗜好と性格特性について—
郡山女子短大 ○石村由美子 林借子 大河内順子

目的 食生活は人間にとって単に基本的欲求を満たすだけにとどまるものではなく、人格を形成する上でも重要な基盤のひとつになっていることは、既に種々の報告がなされているが、未だ幅広い食生活のあり方と人格との関連については十分に捉えられるに至っていない。我々ほどのような食生活のあり方が望ましい人格形成につながるものであるかを明らかにしていきたいと考えた。今回は嗜好、性格ともにある程度形成されていると考えられる年齢の女子学生を対象として、食生活の基礎ともなる嗜好と性格特性との関連を捉えることにした。

方法 嗜好調査は項目を食品成分表に準じて穀類、魚貝類、海藻類、獣鳥肉類、卵類、乳・乳製品、嗜好飲料、野菜類、豆・豆製品、果実類、菓子類の11分類とし、その中から132種の食物を提示し5段階に評定させた。さらに食事に対するイメージテストはSD法によって行なった。また、性格についてはY-G性格検査を用いた。

結果 嗜好調査は全体的にみて果実類、乳・乳製品の評定値が高く、魚貝類、豆・豆製品が低い。性格タイプ別にみると嗜好のばらつきはB型において大きく、E型において小さい。また魚貝類、野菜類のばらつきは少なく、嗜好飲料、獣鳥肉類は多い。イメージ調査の結果では、D型とE型間に差がみられ食事に対するイメージのずれがみられた。性格のプロファイルが右下りになるD型と左下りになるE型とにイメージのずれがみられたことは興味深く思われる。